

令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立八幡小学校

(令和3年1月21日作成)

1 学校教育目標 勉強する子 良い子 強い子	
2 重点目標・努力目標 ・やる気で勉強する子の育成 ・はっきりあいさつする子の育成 ・たくさん運動する子の育成	3 前年度の成果と課題 成果 ○児童の学力、体力、規律ある態度の向上が図られた。 ○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を毎時間の授業の中に取り入れ、児童の主体的で対話的な活動を重視した授業を展開したことにより、児童の表現力・情報収集力が高まり、意欲的に学習する児童が増えた。 ○学校行事や日程の調整を図り、学年会や研修における教材研究の時間等放課後の時間をしっかり確保したことが職員の負担軽減となり、勤務時間外在校時間の減少につながった。 課題 ●校内研修の他、相互で授業を見合える授業公開の機会を増やし、教員一人一人の授業力を向上させていく。 ●カリキュラムマネジメントの研究を進めていく。 ●毎食後のほみがきタイムを日課の中に位置づけ、児童のむし歯予防の意識を高め、う歯治療率を上げていく。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○コロナ禍で計画通りに進むことばかりではなかったが、限られた時間の中で運営し、教育活動を進めることができた。 ●校務分掌の見直しと業務内容の再編により負担軽減を図る。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○継続的なテーマで校内研修を進めることができ、授業改善を図ることができた。 ●研修を通して得た成果を、より具体化し、日頃の教育実践の場に落とし込んでいく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○定期の安全点検及び日頃の巡視等で気づいた点を素早く修繕し、事故を防ぐことができた。 ●職員一人一人の危機管理意識を高め、より一層の安全管理に努めていく。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報の取り扱いを全職員で確認し、情報管理を徹底できた。 ●校務支援システムとタブレットを安全かつ有効に活用していく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○コロナ禍でいつものように公開ができない中だったが、学校だよりの地域等への配付、ホームページの計画的更新等で地域等への情報発信ができた。 ●学校応援団のより効果的な活用を図る。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○例年のような教員合同研修会や交流会等の開催はできなかったが、連携教員を活用し、小中一貫教育を推進することができた。 ●幼稚園・保育園・中学校との連携を深め、一貫教育のさらなる充実につなげていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○休校期間明けから、できる限り授業時数の確保をし、行事についても状況を見ながら行い、教育課程を実施することができた。 ●児童の実態をとらえ、日課表等の見直しを図る。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を意識した授業改善に努めた。 ○ICT機器が活用され、児童の学習意欲の喚起、学習内容の理解に役立った。 ●今後も授業の振り返りを充実させ、学びをつなげていくことで学力向上を図っていく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○資料をストックし、整理棚に保管することで、資料を十分に活用して授業に臨むことができた。 ○振り返りの時間を大切にし、自分について考え、児童の実践態度へつなげることに努めた。 ●対話的学びから深い学びにつなげるための教材研究をさらに充実させていく。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語活動担当教員がALTと綿密な打ち合わせの上で楽しく授業を行い、コミュニケーションを図る素地の育成ができた。 ●評価について、さらに研修を進めていく。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○活動が制限される中であつたが、発達段階に応じて内容を工夫し、主体的な活動が見られた。 ●様々な制限の中でも、児童の意欲を大切にしながら行事や児童会活動等の充実を図っていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決や探求活動を取り入れ、ICT機器を活用しながら主体的な授業を展開した。 ●より地域に根差した内容の充実を図る。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の生徒指導委員会やハートカード、生活アンケートの実施により、早期発見・対処ができています。 ●全ての児童があいさつや返事がしっかりとできるよう、共通理解の下で指導をしていく。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○社会、学級活動、総合的な学習の時間、学級での係活動等で職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成を図った。 ●キャリアパスポートの効果的な運用について準備を進めていく。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターを中心に、校内委員会の役割を分担し、研修や交流教育を通して特別支援教育への理解が深まり、児童への日々の指導に生かされた。 ●通常学級と特別支援学級との交流活動を充実させ、相互理解を深めていく。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせや本の紹介、スタンプラリー等の取組により、読書活動の充実が図れた。 ●本に親しむ機会を増やし、学年学級の読書量を増やしていく。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○大型電子黒板やタブレット端末を積極的に授業に用いて、日頃の授業で児童の関心や意欲を高めることができた。 ●タブレットの効果的な活用の研修を進める。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットやスマホによる人権侵害等の問題を自分の問題として捉え、人権問題と自分との関わりをしっかりと見つめるよう、人権作文や標語、「めぐみ」の視聴に取り組んだ。 ●性同一性障害など、近年における様々な人権問題にも正しく理解し行動できる児童を育成する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学力向上への取組	・組織的な学力向上 ・校内研修の充実	A	○県の学力調査では、5・6学年で国語・算数の平均点が県の平均を上回った。 ○県の学力調査では、昨年度の課題を分析し改善した結果、5・6学年で学力の伸びが見られた。 ●記述式の問題に共通して課題が見られた。
	②体力の向上	・授業の工夫改善 ・年間指導計画の改善 ・授業外活動の推進	B	○休校中の動画配信や休校明けから少しずつグリーンコースマラソンや縄跳びに取り組み、体力向上を図った。新体力テストでは、立ち幅跳びや昨年度の課題として挙がっていた握力に向上が見られた。 ●50m走と反復横跳びに課題が見られた。体育の補強運動や準備運動にスキップ走等を取り入れ、継続した取り組みを行っていく。
	③規律ある態度の向上	・学校生活での取組 ・家庭との連携	B	○県の調査では、「時刻を守る」「学習準備」「掃除・美化活動」等で引き続き高い達成率が見られた。また、「話を聞き発表する」項目について、まだ十分ではないものの、伸びが見られている。 ●学校アンケートでは90%近くの児童があいさつや返事ができると答えていたが、保護者の回答は75%であった。全ての児童がはっきりあいさつできるよう、継続して指導していく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・校長の経営方針及び学校の重点目標を年度当初に確認し、共通理解の下、指導を行った。そのため、前年度に引き続き児童の学力、体力、規律ある態度の向上が図られた。
- ・「草加っ子の学びを支える授業の5か条」について、教職員が意識を高め、授業の中に取り入れ、児童の主体的で対話的な活動を重視した授業を展開したことにより、児童の表現力が向上し、意欲的に学習する児童が増えた。
- ・コロナ禍でさまざまな制限がある中であったが、感染症対策を取った上で、実施方法を工夫しながら行事や教育活動を進めることができた。

6 次年度の改善策

- ・様々な場面で授業を見合える機会を増やし、教員一人一人の授業力を向上させていく。
- ・タブレットをはじめとするICT機器の活用について研究を進め、どのような状況にも対応できるようにしていく。
- ・児童の実態に合わせ日課を見直し、より効果的に教育活動が進められるようにしていく。